

# 助産師目指し日々奮闘

## 県南初の養成校 八学大別科1期生4人

### 八戸

八戸学院大学（八戸市）が本年度新設した県南初の助産師養成課程「別科助産専攻」（定員4人）に、1期生4人が入学した。それぞれ同市または南部町出身で、住み慣れた地域で目標とする資格取得に取り組めることに「感謝している」と声をそろえる。将来は地元で就職し、妊産婦を精神的に支えたい、女性のライフサイクル各期に応じた健康支援に関わりたいなど、それぞれが目指す助産師像を思い描きながら、4人で助け合い、励まし合って勉学に励んでいる。

（千葉真由美）



5月下旬、学内の教室で1期生の小館杏佳さん（22）、石川莉菜さん（21）、市澤孝子さん（23）、小向真菜さん（21）が「分娩直接介助」の演習に取り組んでいた。分娩台や新生児の診察台を使用し、4人は妊婦役と助産師役を交代しながら妊婦や新生児の人形を使ってお産の介助や産後の処置などの手順を確認した。

4人とも国家試験に合格した看護師で、小館さんは八学大看護学科、石川さんは同市の八戸看護専門学校を今春卒業した。市澤さんは昨春に八学大を卒業してから1年間、同市立市民病院周産期センターに勤務。小向さんも昨春に同市の千葉学園高助産師を目指して勉学に励む1期生の（左から）小館さん、市澤さん、小向さん、石川さん

## 修了後は地元就職を希望

校看護専攻科を卒業後、同市の国立病院機構八戸病院に就職して1年間勤めた。それぞれ以前から助産師を志望しており、八学大に助産専攻が開設されなければ県外の養成校に進学する予定だったという。

八学大の助産専攻は1年課程。講義や演習で助産師としての専門知識と技術を学ぶほか、同市立市民病院、八戸赤十字病院、三沢市立三沢病院などの協力を得て実習を行い、来年2月の国家試験合格を目指す。修了後はいずれも八戸市内の産科がある医療機関への就職を希望しており、助産師不足が深刻な県南地域で活躍が期待される。

市澤さんは「学、知識量は多いけれど、毎日が充実している」と笑顔を見せ、「再び八戸市民病院で分娩に関わりたい。望まない妊娠を減らすための教育にも取り組めたら」と思い描く。小館さんは「妊娠、出産、育児は女性のライフサイクルの中で一大イベント。すごくいい体験だったと思うってもらえるよう支援したい」と目標を語った。

同専攻の高橋雪子別科長は「4人は助産師になりたいという思いが強く、日々努力し成長している。社会に関心を持ち、尊い命を大切に、地元で貢献できる助産師になってほしい」と期待を寄せている。